

# 重要カレイ類の資源評価と管理技術に関する研究

(資源評価調査)

曾田一志・佐々木正・村山達朗

## 1. 研究目的

本県の底びき網漁業の重要な漁獲対象種であるムシガレイ、ソウハチ、アカガレイの資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的な資源評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ永続的利用を図るための提言を行う。

## 2. 研究方法

上記3種について、産地市場における漁獲統計資料の収集、市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定および試験船による分布調査を実施した。さらに、これらの調査結果をもとに独立行政法人水産総合研究センターおよび関係各県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い生物学的許容漁獲量（ABC）の推定を行った。

## 3. 研究結果

3魚種について浜田港と恵曇港に水揚げされた漁獲物の統計を取りまとめるとともに、島根丸による試験操業時に漁獲された漁獲物の体長測定を行った。また、浜田港、恵曇港において漁獲物の体長組成調査を実施し、一部標本について体長、体重、生殖腺重量、胃内容物等の測定を行った。さらに、独立行政法人日本海区・西海区水産研究所が中心となつて行う資源評価会議に参加し、資源量、漁獲水準、漁獲強度の推定と、管理方策の提言を行った。

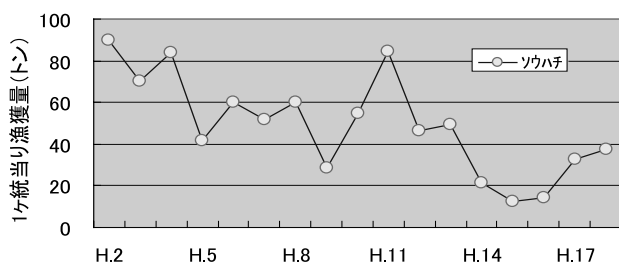


図1 ソウハマチ漁獲量の経年変化（漁期年）

ソウハチについては過去の市場調査等の結果を元に全長組成の頻度分布の経年変化を求めた（図2）。その結果、漁獲量が急減する直前のH12漁期（図1）から小型魚が減少し、H14年漁期では全階級が減少した。漁獲量が若干回復したH18年漁期では、小型魚の漁獲量が再び増加し、漁獲量の傾向と小型魚の多寡が密接に関係することが示唆された。

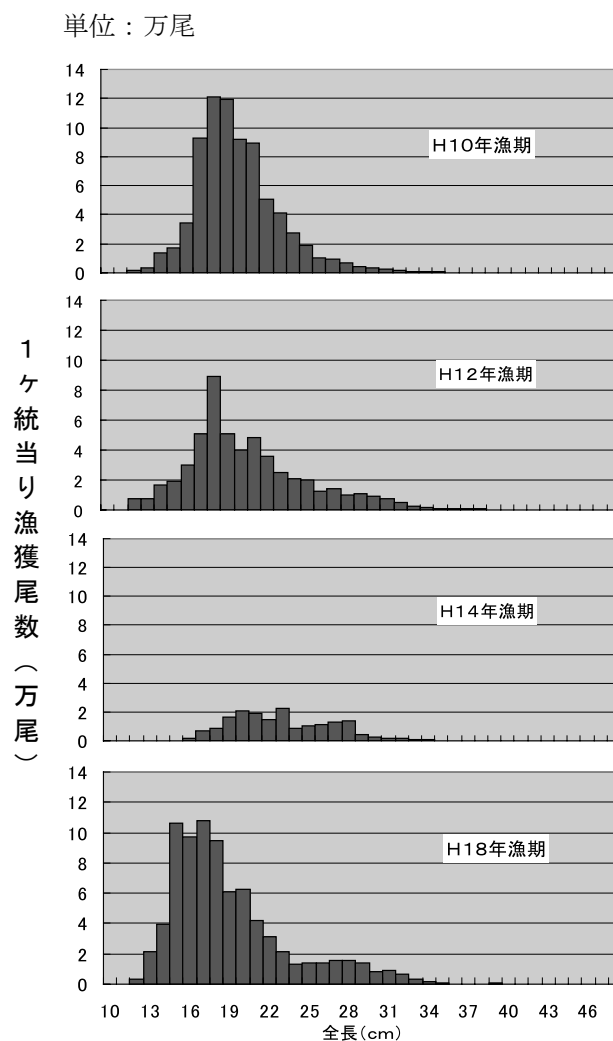


図2 ソウハマチ全長組成（1ヶ統当り）